



2025年9月1日

〒104-0045

東京都中央区築地5-3-3

築地浜離宮ビル7階

TEL 03-3541-4771

FAX 03-3541-4783

報道関係各位

日本対がん協会賞・朝日がん大賞の受賞者決定

公益財団法人日本対がん協会(会長 垣添忠生・国立がんセンター名誉総長)は、がん征圧活動に功績のあった方々に贈る「日本対がん協会賞」(個人の部、団体の部)と、その特別賞である「朝日がん大賞」について、2025年度の受賞者を決定しましたので、お知らせいたします。

●朝日がん大賞 井上 真奈美氏

●日本対がん協会賞

個人の部:伊藤 一夫氏、岡村 信介氏、長瀬 清氏、松田 一夫氏

団体の部:あけぼの秋田(佐藤清子代表)

* 受賞理由等は別紙をご参照下さい。

両賞の表彰式は、9月の「がん征圧月間」に合わせ、9月19日(金)に神戸市中央区で開催する「がん征圧全国大会 兵庫大会」で行います。

■お問い合わせ先■

日本対がん協会 広報(今井)

Tel : 03 3541 4771

Fax : 03 3541 4783

Mail : jcskouhou@jcancer.jp

URL : <https://www.jcancer.jp/>

2025年度「日本対がん協会賞」「朝日がん大賞」受賞者

【朝日がん大賞】

井上 真奈美(いのうえ・まなみ)氏 59歳

国立がん研究センター がん対策研究所 副所長

受賞理由:「がん疫学研究による国内外のがん対策への貢献」

がん予防対策を効果的に行うための優先順位付けにおいて、日本で初めて標準化された手法を用い、日本人のがんに対する各要因の人口寄与割合を系統的に推計。喫煙とがん関連感染症をターゲットにした予防対策が最優先だと科学的に示し、国のがん対策推進基本計画などの科学的根拠となった。がんに限らず、高血圧と喫煙が日本人の死亡の二大要素であることなどを客観的に示し、日本人の健康寿命延伸のための健康施策の根拠にもなっている。研究と対策・政策の橋渡しとなる科学的証拠の創出には、基になるデータの理解が必須だが、国や県のがん研究機関、大学という異なる立場・視点での経験を生かし、がん対策につながる成果を発信してきた。国際がん研究機関(IARC)の科学諮問評議会議長を務めるなど、世界のがん疫学研究のけん引役でもある。これまでの功績に加え、今後の活躍が期待される。

《朝日がん大賞》 日本対がん協会賞の特別賞として、2001(平成13)年に朝日新聞社の協力により創設されました。①がんの予防や検診のあり方等の研究で、将来期待される成果を挙げた個人・団体、②画期的な検診機器の開発に関して功績を挙げた個人・団体、③患者・治癒者を支える研究や活動などで顕著な貢献をした個人・団体に贈られます。2024年度までに26個人・団体が受賞しています。

【日本対がん協会賞】

◆個人の部(50音順 年齢は2025年9月1日現在)

兵庫県

伊藤 一夫(いとう・かずお)氏 78歳 兵庫県健康財団 理事

受賞理由:放射線科専門医として長年にわたり、兵庫県での健診(検診)実施体制の拡大に尽力し、肺がんなど各種疾病の早期発見に努めた。定年後も兵庫県健康財団の保健検診センター参事(読影担当)としてX線画像診断を数多く担当し、早期がん等の発見に努めるとともに、同財団画像専門委員会の委員長として若手医師や診療放射線技師への指導を精力的に行うなど、がん検診の精度向上への貢献した功績は大きい。

兵庫県

岡村 信介(おかむら・しんすけ)氏 76歳 姫路市医師会診療所 医師

受賞理由:1994年から姫路市医師会が運営する子宮がん検診車による集団検診に現在も従事し、医療機関が少ない郡部での子宮頸がん検診の受診率向上に貢献した。1998年4月～2013年3月に市医師会集検(子宮)委員長などを務め、受診率向上のための講演会に積極的に協力。姫路市が子宮頸がん検診でHPV検査単独法を導入する際、行政と医療機関との調整役として中心的役割を担い、実施体制の構築に努めた。

北海道

長瀬 清(ながせ・きよし)氏 87歳 北海道対がん協会 名誉会長

受賞理由:北海道大学付属病院を経て、1983年に札幌市に内科医院を開業。2007年に北海道医師会長、2014年に北海道対がん協会長となり、がんや生活習慣病の予防、治療に関する知識の普及啓発、検(健)診の実施、調査・研究などに積極的に取り組み、道民の健康増進に寄与した。北海道医師会では地域医療の推進や時間外救急医療体制の強化に尽力し、道民の医療・保健・福祉の向上と道医師会の発展に貢献した。

福井県

松田 一夫(まつだ・かずお)氏 69歳 福井県健康管理協会 がん検診事業部長

受賞理由:30年以上にわたり、健康診査を通して県民の健康福祉の向上に貢献し、県内の一元的ながん検診の推進、受診率の向上、精度管理の維持・向上の中心的役割を担う。コロナ禍でも健診、がん検診の重要性に鑑み、感染対策の徹底を指揮し、積極的に受診者を受け入れた。がん検診の専門家として、国のがん対策推進協議会などの委員を務め、国や福井県のがん対策にかかわる施策の推進に大きく貢献した。

【日本対がん協会賞】

◆団体の部

秋田県

あけぼの秋田 佐藤 清子(さとう・せいこ)代表

受賞理由:乳がん患者会「あけぼの会」の秋田県支部として設立された1988年から乳がん患者同士の交流、情報交換の場として手術を受けた患者や家族を支える活動を行い、患者のQOL(生活の質)向上や社会復帰のサポートに尽力。患者や家族、乳がんが心配な人を対象にしたサロン、専門医や保健師らの勉強会や相談会を開き、行政や医療機関の評価は高い。「秋田県の乳がん死ゼロ」をめざして乳がん経験者の講演、専門医とのがん教育授業にも取り組んでいる。

《日本対がん協会賞》

日本対がん協会設立10周年にあたる1968(昭和43)年に創設されました。がん予防をはじめ、広くがん征圧のための運動、事業、研究に顕著な功績のあった個人と団体、多年にわたって地道な活動が続けてきた個人と団体に贈られます。2024年度までに個人の部で265人、団体の部で133団体が受賞しています。

《2025年度 選考委員会》

委員長 垣添 忠生(日本対がん協会 会長)

副委員長 大内 憲明(東北大学大学院 医学系研究科 特任教授、
東北大学名誉教授)

選考委員 梅田 正行(日本対がん協会 理事長)

(50音順) 佐野 武(がん研究会有明病院 病院長)

津金 昌一郎(国際医療福祉大学大学院 医学研究科
公衆衛生学専攻 教授)

辻外記子(朝日新聞東京本社 暮らし科学医療部 部長代理)

松本吉郎(日本医師会 会長)

以 上